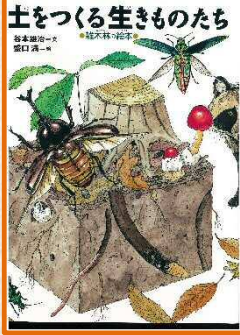


大好き！絵本

初瀬 恵美



『土をつくる生きものたち
●雑木林の絵本●』

文：谷本雄治

絵：森口 満

出版社：岩崎書店

早いもので、もう10月。実りの秋に突入しましたね。しかし、残暑厳しく、いつまでも夏のような日中がつづいています。

さて今月は、実りの秋もよく肥えた土があつてこそということで『土をつくる生きものたち ●雑木林の絵本●』を紹介したいと思います。

この絵本を保育室に初めて持って行ったとき、「みせて！」の声がとてもあがりました。一瞬で子どもたちの心をくぎづけにしたのです。実は、私も一目見てくぎづけになりました。虫が大好きで、自然が大好きな人には、この気持ちがきつと伝わるとと思います。ですが、虫が苦手な方は・・・悲鳴をあげるかもしれませんね。（笑）

この絵本を子どもたちと読もうとしても、ほとんど話がすすみません。それはおそらく、大好きなものがいっぱい描かれているからだと思います。まるで、雑木林にでかけて、虫探しをして、発見したかのように嬉しそうに話してくれます。

「みてーカブトムシ！」「ダンゴムシもいる」表紙だけでも数分話がつきませんでした。つづいて、ページをめくると沢山の落ち葉が描かれていました。よく見ると、葉っぱに交じりカタツムリの殻やトカゲやミミズ、小さな虫や、鳥の羽、カブトムシの死骸、いろいろな動物のフンなどなど、まだまだいっぱい！とても多くのものが描かれていました。子どもたちは、どんどん発見して、我先にとあらすって伝えてくれました。こんなに発見を伝えたくて伝えたくて、おしゃべりがとまらない絵本は初めてでした。

ひとしきり、子どもたちの話を聞いた後に、「ねえ、葉っぱって、土になると思う？」と聞いてみました。もちろん「ならなーい！」と返事が返ってきました。「そうだね。葉っぱが土になるなんて、思わないよねー。」という「うん！」と子どもたち。「でもさ、なるんだって。」という「えー、なんで？」と、いい反応(^▽^)/そこで、絵本の文を読み、ちょっと、分かりやすいように解説もすると、「へー」と一応納得。当然のことながら、文章をもとにした絵が描かれているので、いろいろな発見の意味がちゃんと文章から読み取れることになっているのです。興味を出発にして、知らなかったことを知ることができるととても素敵な絵本だと思いました。多くの子どもたちの心をつかんだこの絵本、そのまま読むと小さい子には少し難しいかもしれませんが、絵本をきっかけに、生き物と植物の豊かな関係性を感じとり、自然好きな気持ちを、大切に育てていってくれたらなと思いました。

誕生日おめでとう

